令和２年５月 28 日

小諸市議会６月定例会

令 和 ２ 年 度

所 信 表 明

小諸市長　小 泉 俊 博

令和２年６月市議会定例会にあたり、私の所信の一端を申し述べさせていただき、議員の皆様並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、先の選挙におきまして、多くの皆様のご支援をいただき、結果的には、無投票となりましたが、再び小諸市政の舵取りの重責を担わせていただくこととなりました。

あらためまして市民の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、私にお寄せいただきました多くのご期待にお応えするべく、２期目も力の限りを尽くして、誠心誠意、市政経営に邁進いたしますことをここにお誓い申し上げます。

議員の皆様には、引き続き、ご指導とご鞭撻を切にお願い申し上げます。

最初に、当面の最重要課題であります「新型コロナウイルス感染症対策」について申し上げます。

政府は、４月７日に７都府県を対象区域とする緊急事態宣言を発出して以降、４月 16 日には、新たに６つの道府県を加えた 13 都道府県を「特定警戒都道府県」と位置付けた上で、緊急事態宣言の対象区域を全国に拡大しました。さらに、５月４日には、感染者の減少が十分なレベルに達していないことから、宣言の期間を当初の５月６日から５月 31 日に延長しました。その後、５月 14 日、21 日には、一部区域を除き段階的に解除とはなりましたが、解除区域にお

きましては、第２波、第３波の出現が懸念されております。

今はまだ先行きが見えず、不安ばかりが大きくなり、ややもすれば心が折れそうな状況です。だからこそ、自分や家族はもとより大切な人の命や健康、暮らしと日常を守るために、地域全体が、組織や団体の垣根を越えて協力し合い、感染拡大と医療崩壊の防止、さらに社会や経済の立て直しに取り組んでいかなければなりません。そしてこの闘いは、想像以上に長期戦になることが予想され、相当な痛みが伴いますので、これまで以上に市民一人ひとりの強い意志と覚悟、そして互いに力を合わせながら支え合うことが必要であると考えています。

この間、市では、十数回にわたり対策本部会議を開催し、ここで決定したさまざまな対策を展開してまいりました。私も５回にわたり、市長メッセージとして、市民の皆様へのお願いとエールを自分の言葉で発してきました。また、その対策の初期の段階では、感染拡大防止に向けた啓発や市の施設や事業における感染拡大防止策の実施、関係機関、関係団体との連携強化のための連絡会議の開催、市役所内での感染防止と業務継続計画の策定等を実施してまいりました。次の段階では、感染拡大防止策を強化するとともに、特に経済対策や生活支援に重きを置いた対策を実施してきたところです。

今後も、市民の皆様の命と健康、安全・安心な暮らしを守るために、国や県、関係機関、各種団体や事業者の皆さんと一丸となって、「新型コロナウイルス感染症対策」に力を傾注してまいりますので、議員の皆様には、引き続き、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

それでは、私の「市政経営に向かう上での基本的な考え方」について申し上げます。

日本社会は、少子化と超高齢化による人口減少に向けた流れが急激に進行し、地域コミュニティの希薄化、社会保障システム維持への懸念、力強い経済成長の実現が困難になるなど、多層的、複合的な課題が山積しています。さらに、地球温暖化の影響とされる異常気象や気候変動、自然災害の頻発、加えて新型コロナウイルス感染症が暗い影を落とすなど、不安要素を挙げれば枚挙に暇がなく、将来を描くことが困難な状況に陥っております。

小諸市におきましも、少子高齢化・人口減少の進行、これまで以上に厳しさを増す行財政、また、その中でのそれぞれの地域の特性を活かしたバランスの良い発展、安全・安心のまちづくりのための防災・減災体制の構築など多くの課題があります。

特に人口減少問題は、今まで経験したことのない厳しい状況であり、将来を展望した時、正に待ったなしの深刻な問題であることは、疑う余地はありません。そして、私たちは、ここに暮らす市民の皆様が幸せを感じられ、元気と活力ある都市であり続けるために、ここでただ手をこまねいているわけにはいきません。

幸いにして小諸市は自然環境にも恵まれ、首都圏に近い地の利があり、さらに歴史やそれに裏付けられた文化芸術、自然災害に強いといわれる土地柄に加え、これまで歴代の市政で取り組んできた子育てやまちづくりの施策など、多くの財産があります。

これらを最大限活かし、“小諸市でなければできない”“小諸市だからこそ選ばれる”ということを意識した市政経営を展開することで、人口減少問題に果敢に挑戦し、小諸市が“持続可能なまち”であり続けるための強固な礎を築いていかねばなりません。

そして、私は、これらを実現する上での今後の小諸市の姿・ビジョンとして、「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」＝「市民が健康で生きがいを持ち､安心安全で豊かな人生を営むまち。小諸市を訪れる国内外の人々が“自分に還る”“何度でも帰りたい”まち」を掲げ、その実現に向けた政策を展開してまいります。

これまでの４年間、私が進めてきた政策、そして、今後、進めていく政策の目的や意義を突き詰めていくと「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」に全て集約できるという考えに至りました。

聞き慣れない言葉かもしれませんが、私が追い求めてきた小諸市の姿やビジョンを変更するものでなく、「皆が幸せで輝く人生を実現する」という視点において、これまでの施策や事業をもう一度、精査し、さらに磨きをかけていくものとご理解ください。

それでは、ここからは、私の基本政策及びその実現のための重点施策をご説明申し上げます。なお、現行の小諸市総合計画との整合を図るために「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」を形成する政策の柱も６つにまとめました。

１　心豊かで自立した人が育つまち「子育て・教育」

まず、一つ目は、心豊かで自立した人が育つまち「子育て・教育」の分野です。

少子化、人口減少が進行する中で、全国の基礎自治体には、子育て世代に如何に良い子育て環境や教育環境を提供できるかが問われています。また、人生 100 年時代に、どのように豊かな人生を送るかを考えるとき、学び続けられるということに対する重要性が増しています。小諸市には、豊かな自然、歴史・文化といった財産や医療福祉環境など子育て・教育に適した環境があります。これらの資源をフルに活用して、小諸でなければできない子育てや生涯にわたり学びが実践できる環境を整えてまいります。

子育て支援の充実を図る一環とし、土日祝祭日などに子どもを預ける場所を希望する保護者の要望に応えるため、民間のチカラを基本にした事業を研究し実現をめざします。当面はファミリーサポートセンターの活用を促進することでこれらのニーズに対応していきます。

少子化を見据えて、将来にわたりより良い保育環境を維持するために「（仮称）保育園再配置計画」を策定します。なお、芦原保育園と中央保育園の再構築については、現行の計画を基本に、スピード感をもって進めていきます。

喫緊かつ重要課題と位置付けている「長期学校改築計画」につきましては、子どもたちの学びにとって、何が望ましいかという視点で「学校教育審議会」の議論を進め、財政面や公共施設等総合管理

計画などを踏まえた計画として、早期の策定に向け、取り組んでまいります。また、策定にあたっては、時間をかけて地域の皆さんの想いを受けとめながらもスピード感をもって、学校の統廃合を含めた議論をさらに活発に進めていきます。

長期学校改築計画を踏まえながら、ＩＣＴ環境などの学習環境を充実させ、新たな学習指導要領に沿った学びを推進します。

小諸市が誇る安全で美味しい「自校給食」を今後も継続するために、給食業務の民間委託を推進していきます。

高地トレーニングの推進につきましては、トップアスリートと子どもたちの交流事業を推進するとともに、新たな展開として、高地トレーニングから波及した交流人口、関係人口や人脈を市民の健康増進、市内の産業振興につなげてまいります。

2027 年の長野国体でのレスリング競技を成功させるため、レスリング協会や体育協会はじめ関係機関・団体等と協力・連携し、準備を加速していきます。

音楽のまち・こもろにつきましては、引き続き、小中学校の音楽活動を推奨するとともに、これまで実施してきた事業の創意工夫と充実により市民への浸透を図り、まちじゅうに音楽があふれるまちの実現をめざします。

２　豊かな自然と環境を未来につなぐまち「環境」

二つ目は、豊かな自然と環境を未来につなぐまち「環境」の分野です。

昨今の甚大な自然災害をもたらす世界規模での異常気象、気候変動は、非常に深刻な問題となり、世界中がCO2排出削減など、その対策に追われていますが、小諸市においても決して例外ではありません。

ここで暮らしている私たちには、あたり前と思っている雄大な浅間山や清流千曲川、豊かな森や水資源などの自然環境には、訪れる人々を感動させ、癒すチカラがあります。環境にこれ以上負荷をかけない最大限の努力をすることで､先人たちが日々の暮らしの中で、深く関わり、守り育てた貴重な財産を保全し、健全な形で未来につなげることが、現代を生きる私たちの使命です。

そのためには、消費者、事業者等の意識啓発と積極的なごみの分別、適正なごみ処理により、ごみの減量化と再資源化を進め、資源循環型・環境保全型社会の形成をめざします。

太陽光発電の普及は再生可能エネルギーの活用として有効ですが、環境に負荷を与えるような開発には歯止めをかける必要があります。「小諸市太陽光発電事業の適正な実施に関するガイドライン」等を、厳格かつ適切に運用することで、地域住民と事業者との相互理解のもと、本市の豊かな自然環境や優れた景観と調和した再生可能エネルギーの活用により、低炭素社会への移行をめざしてまいります。

小諸市の総面積の約37%を占める森林は、清らかな水や空気を育み、土砂災害や地球温暖化を防止するとともに、林産物を供給するなど多面的機能を有しています。先に創設された森林税（森林環境税、森林環境譲与税）を森林の整備・管理のために有効活用し、企

業や関係機関･団体の活力を活かしながら森林保全に取り組みます。

３　全ての人のいのちが輝くまち「健康・福祉」

三つ目は、全ての人のいのちが輝くまち「健康・福祉」の分野です。

市民の誰もがいのちを大切にし、いのちが大切にされ、いのちをつなぐことを究極の目標とします。そして、小さな子どもから高齢者まで市民一人ひとりが健康に心がけ、みんなで支え合い、幸せが実感でき、だれ一人として取り残されることのない市政を進めていきます。

また、高齢者や生活弱者が住み慣れた地域で安心して活き活きと暮らせる福祉環境を整備することで、誰もが暮らしやすい地域づくりを推進します。さらに、一人ひとりが自ら考え行動できる人間力を育み、その個性や能力を十分発揮し、いつまでも輝き続けられる社会の実現をめざします。

健康促進施策として、「坂のまち・こもろ＝歩かない」を“坂のまち”だからこそ“上手に歩いて健康づくりにつなげる”といった逆転の発想で、インセンティブ（目標を達成するための誘因）につなげます。そして、ウォーキングにより適度な運動習慣を身につけると同時に、健診受診率向上に取り組み、市民の健康意識の向上と健康習慣の定着を図ります。

家族形態の変化､就労の多様化､地域コミュニティの希薄化など、子どもを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、子育てに不安や

孤立感を感じる家庭が少なくないことから、保育ニーズの多様化が進んでいます。そこで、母子健康包括支援センターを中心に関係機関との連携を密にし、妊娠から出産・子育てまでの切れ目ない支援を行います。

高齢者支援策として、地域包括ケアシステムを確立し、高齢者をみんなで支える地域ネットワーク構築のための事業を継続して行います。さらに、高齢者ご本人には、各種ボランティアやファミリーサポートセンターへの登録参加を促すとともに、健康サポートクラブ、グリーンクラブ（公園管理）、子ども見守隊、観光ガイドなど、自らの経験や知見、興味などを通じ、生きがい、やりがいを実感しながら社会貢献できる仕組みづくりをめざします。

４　稼ぐ力をもった元気なまち「産業・交流」

四つ目は、稼ぐ力をもった元気なまち「産業・交流」の分野です。

豊かな暮らしを創出するために、「稼ぐ力」を意識した戦略的な産業振興を推進します。このことは、子育てや教育環境の充実、まちづくりの推進、税収アップなどにも直結し、ひいては小諸の人口減少対策にもつながります。そして、各種産業振興策を展開することで魅力ある「商都・農都・住都：小諸」を創ることへの、強い推進力としていきます。さらに、民間のノウハウや活力導入により、農業、商工業、観光業及び新規起業者への各種支援と、小諸市の地理、風土に適した業種業態の企業誘致を推進することで働く場を創出し、定住促進につなげます。

私のトップセールスや農商工業者、企業人(様々なパイオニア等)、マーケティング専門家等との協働により、食と農による「小諸のブランド化」を推進し「稼げるまちづくり」につなげます。また、世界とつながるインターネットをフルに活用するとともに、全国に点在する「小諸ふるさと市民」との連携も図りながら「小諸ブランド」を「ふるさと納税」の返礼品の目玉として位置づけます。

この４年間、シティ・プロモーションの一環として積極的に推進してきた「小諸ふるさと市民」「ふるさと納税」「こもろキャンパス構想」等により、着実に小諸のファンを増やしてきました。これからの時代を見据えた時、定住人口のみならず交流人口、関係人口の拡大は、小諸市の認知度の向上だけでなく、外から人や資金を呼び込むきっかけとなり、観光や農商業振興へ貢献することになります。今後は、交流人口、関係人口の増加により培ってきたさまざまな絆を徐々に強くすることで、将来的なＵＩターンによる定住人口にもつなげていきます。

小諸には唯一無二の歴史遺産や観光名所を始め、８源泉９か所の温泉や自然豊かな森林（癒しの文化）、日本酒・ワイン・味噌醸造などバラエティーに富んだ美味しい食文化（醸しの文化）など沢山の魅力的な資源があります。こもろ観光局や民間企業と協力しながら情報発信に力を入れ、近年盛んなリゾートテレワークやウエルネスツーリズムにより交流人口、関係人口の増加につなげます。このことにより「自分に還れる、何度でも帰りたい場所」としての地位を確立していきます。

先人が守り遺した小諸城址懐古園、そして、大正 15 年に開園し、令和８年で 100 年を迎えようとしている小諸市動物園の再整備は、計画に沿って着実に実行します。特に喫緊で飼育環境の改善が必要な施設や来園者が快適に過ごせるための施設は、国の補助金や企業、個人からの幅広い支援を受けて優先的に整備を進めます。

５　安全・安心で暮らしやすいまち「生活基盤整備」

五つ目は、安全・安心で暮らしやすいまち「生活基盤整備」の分野です。

少子高齢化、人口減少社会に対応した多極ネットワーク型コンパクトシティによるまちづくりを推進し、市内全域の利便性を高めるとともに、全ての世代が安心して快適に暮らせるまちづくりを目指します。

近年、地球温暖化の影響とされる異常気象による自然災害が日本各地に脅威を与えています。災害対策につきましては、「自助・共助」を基本としながら、あらゆる災害を想定した「訓練と備え」をすることで、大規模災害への脆弱性を克服した「災害に強いまちづくり」を進め、市民の安全で安心な暮らしを実現します。

令和３年秋の開業をめざしている複合型中心拠点誘導施設の整備を着実に進め、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成を図ります。この施設に入る高齢者福祉センター、病児・病後児保育施設、ファミリーサポートセンター、ボランティアセンター、多世代交流スペース、公共交通ターミナル、商業施設、公共駐車場等が、既に

市街地に集約された都市機能と併せて、施設の目的に沿って、市内全域の市民、全ての世代の方々が恩恵に浴することができる施設となるよう、よく精査した上で施設の利用・運営計画を策定します。

コミュニティ交通（こもろ愛のりくん、愛のりすみれ号）の運営については、利便性と効率化のバランスを図るとともに、運営経費と受益者負担のあり方を検討の上、高齢者の外出機会の創出と交通事故の防止、快適に暮らせるまちづくりの実現につなげます。

生活に欠かせない道路や橋梁等の社会基盤は、適正な維持管理を行うとともに、極力、長寿命化を図っていきます。

また、公民共同企業体「（株）水みらい小諸」への上水道事業の一部業務委託は、企業体の強みを最大限に活かしつつ、市が業務管理を厳格に行うことで、小諸市の水道水の安定供給と持続的な安定経営に努めます。

６　市民協働で支える健全な行政経営「協働・行政経営」

最後、六つ目は、市民協働で支える健全な行政経営「協働・行政経営」の分野です。

小諸市役所が文字どおり「市民のために役にたつ所」であるよう、意欲と覚悟のある職員の登用や働き方改革等により、恒常的に市役所の改革を進めます。引き続き民間の発想と着眼点で、「行動力」と「機動力」を持って市役所の改革を進め、市民満足度を含めた「日本一の市政」をめざします。

自治基本条例の基本理念である「協働による市民主体のまちづく

り」を推進するため、市民や自治会、各種団体等の理解を深め、自治活動の活性化と自発的で主体的な取り組みを支援いたします。また、自治会役員の負担増や高齢化により自治会運営が難しくなってきている問題などにも積極的に関わってまいります。

そして、ソーシャルキャピタル（社会的つながり）の高い職員を育成し、地域コミュニティ、市民活動リーダーや地域づくりのキーパーソンとの連携を深め、地域が元気になるまちづくりをめざします。

行政経営にあたっては、産業振興などによる市税を中心とする自主財源の確保、ふるさと納税やクラウドファンディングなど「新たな財源確保」に向けた努力を継続的に行います。

「戦略的で効率的な行政経営の推進」に関する実行計画に沿って行政経営の「ムダ・ムリ・ムラ」を徹底的に排除するとともに、「計画～実施～評価～改善」のＰＤＣＡサイクルを回す「行政マネジメントシステム」により行政の生産性を向上させます。また、これらにより捻出された「人・時間・お金」を市民益につながる施策に振り向けます。

将来的な行財政の縮減が避けられない中、持続可能な自治体であり続けるために、財政規律の遵守はもとより、全ての公共施設において効率化、複合化、統廃合を含めた再配置を検討し、総量縮減を図ります。

以上、市長２期目に向けての基本政策及びその実現のための重点施策を申し上げました。

時代は平成から令和に変わりました。「厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そんな時代にしたい」の願いで決まった元号です。小諸市が梅花と縁が深いことから、「いよいよ令和は小諸の時代だ！」と激励してくださる市民もいらっしゃいます。

私は、前述した小諸市の姿・ビジョンとして掲げる「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」を土台とし、「令和は小諸の時代！」を体現すべく、市民の先頭に立ち、これからの小諸の未来に向け、誠実に、粘り強く、全力を尽くして取り組んでまいります。

市民の皆様、議員の皆様、小諸市の明るい未来を切り拓くための歩みを、どうか私と共に、進めていただきますことを心からお願い申し上げ、市長２期目の所信表明といたします。